

# 令和4事業年度決算の概要

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構

Japan Expressway Holding and Debt Repayment Agency

# トピックス ～損益の状況～

## 1. 経常収益 1兆9,402億円 (前年比+1,602億円)

- 新型コロナウイルス感染症の影響が緩和したことにより、各高速道路会社の交通量が昨年度に比べ増加となり、料金収入が増加しました。
- そのため各高速道路会社からの道路資産貸付料収入は、1兆9,075億円（前年比+1,598億円）となりました。

## 2. 経常費用 1兆4,402億円 (前年比+25億円)

- 道路資産貸付業務費は、資産の減価償却費の増加等により、1兆1,382億円（前年比+266億円）となりました。
- 財務費用は、支払利息の減により、2,417億円（前年比▲139億円）となりました。

## 3. 経常利益 4,999億円 (前年比+1,576億円)

- 道路資産貸付料収入の増加等により経常利益は増加しました。

# トピックス ～資産・負債の状況～

## 4. 資産総額 42兆0,067億円 (前年比▲15,681億円)

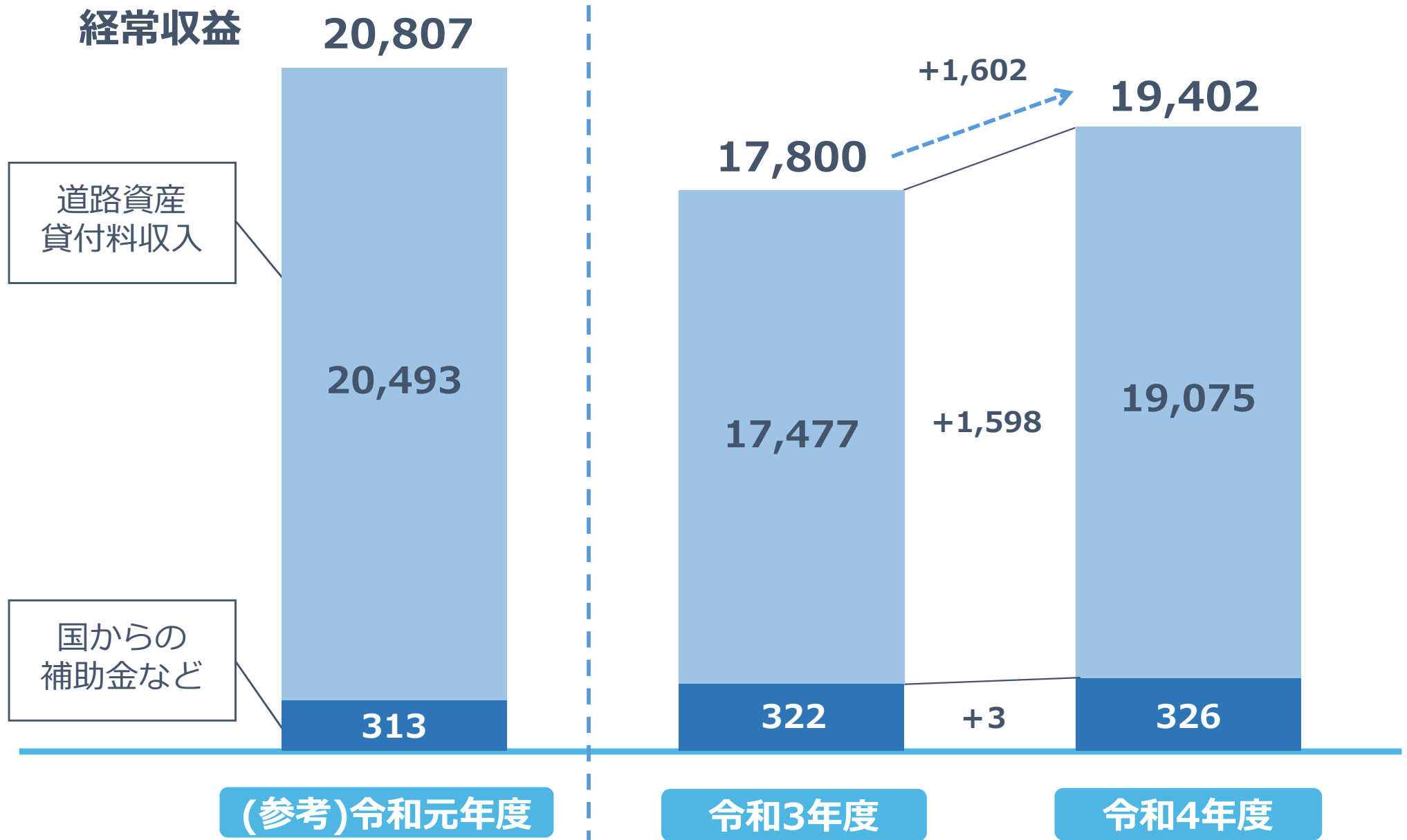
- 流動資産は、財政融資資金の受け入れ額の減少等により7,421億円（前年比▲13,086億円）となりました。
- 固定資産は、第二東海自動車道横浜名古屋線（伊勢原大山～新秦野）の供用による資産帰属の増加等を、減価償却による減少等が上回ったため41兆2,646億円（前年比▲2,595億円）となりました。

## 5. 負債総額 27兆2,064億円 (前年比▲21,015億円)

- 負債は、各高速道路会社からの債務引受による増加等を、機構債及び長期借入金の償還等が上回ったため減少しました。
- これらを踏まえた上で、債務の確実な返済を確認しています。

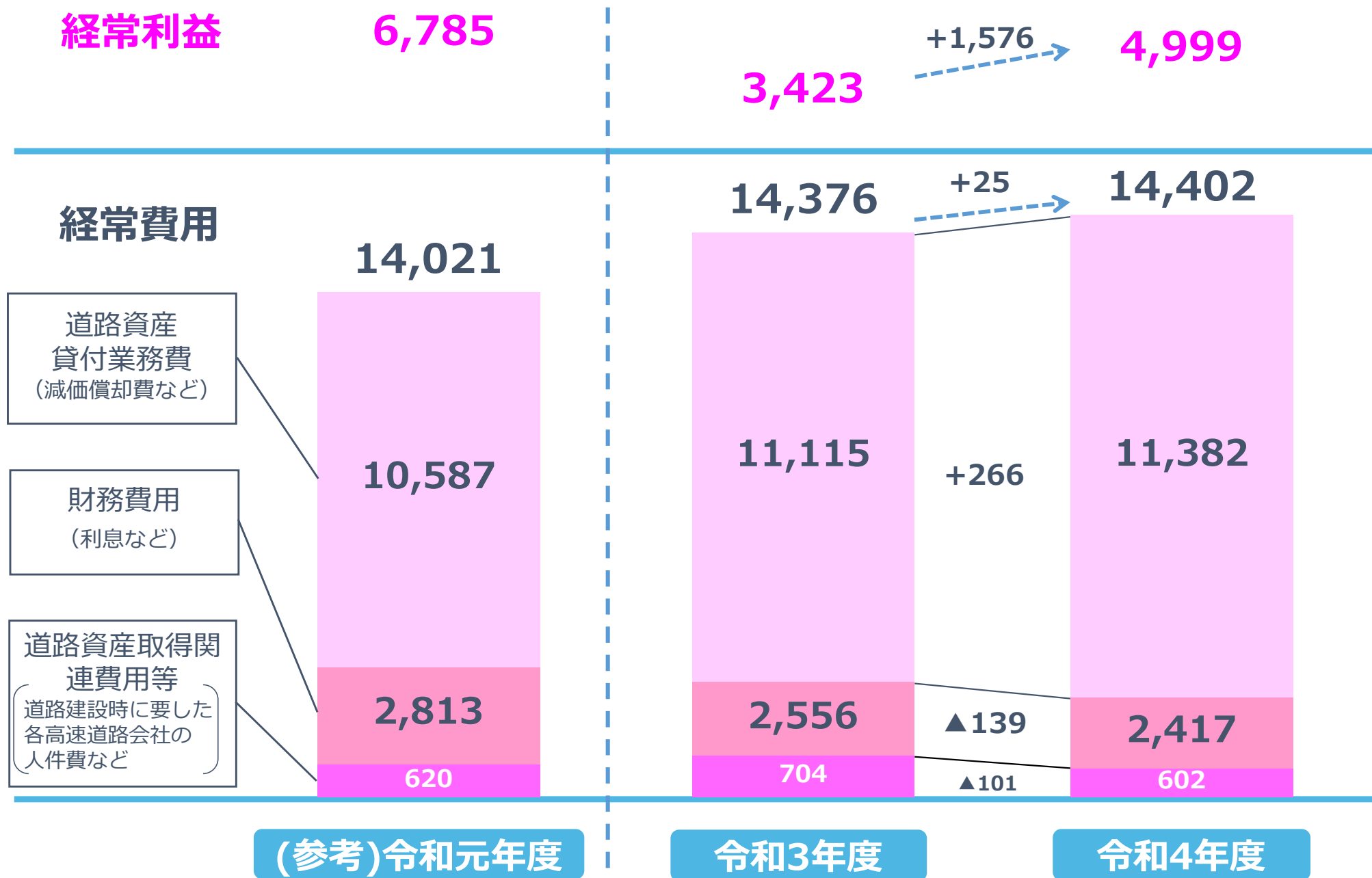
# 経常収益の前年比較

(単位：億円)



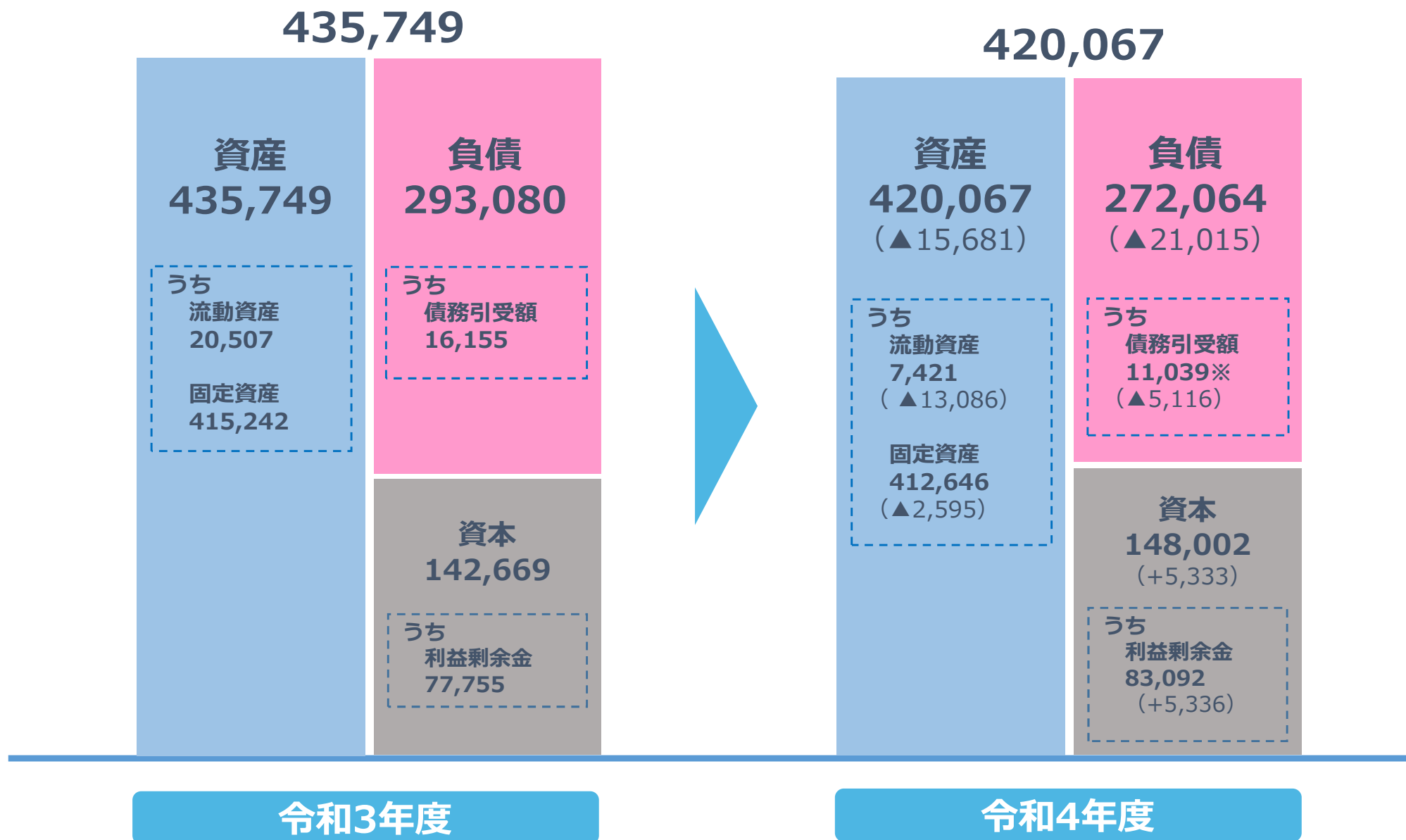
# 経常利益と経常費用の前年比較

(単位：億円)



# 貸借対照表の前年比較

(単位：億円)



※金額は、法人単位財務諸表（PDF）の  
長期借入金及び機構債の明細（19ページ目）に掲載しています。